

令和 8 年度 長崎県学力調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査目的

本県独自の学力調査を実施することにより、児童生徒の学力の定着状況を把握・分析し、各学校における児童生徒への教育指導の充実や改善等に役立てるとともに、県及び市町の教育施策の成果と課題を検証して学力向上対策の一層の充実を図る。

2 調査実施期間・調査内容

○令和 8 年 4 月 23 日(木)

・小学校調査（国語・算数：第 5 学年：40 分）

・中学校調査（国語・数学：第 2 学年：45 分）

3 調査実施校数及び児童・生徒数

(1) 調査実施校数 459 校（小学校 291 校、中学校 168 校）

※ 公立小・中・義務教育学校、県立中学校、特別支援学校

(2) 調査実施児童・生徒数

小学校第 5 学年 9,966 人

中学校第 2 学年 9,832 人

Ⅱ 結果の概要

1 出題の考え方

- 学習指導要領が目指す学力像を示し、授業で身に付けさせたい資質・能力に視点をあてたもの。
- 学習指導要領が求める基礎的・基本的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を問うもの。
- 学習指導要領の内容の定着状況を把握するとともに、過年度の課題を検証する。
- 各教科の平均正答率の目標値（以下「目標値」とする）を60%とする。

2 県全体（公立小・中・義務教育学校、県立中・特別支援学校）の平均正答率（%）

	小学校		中学校		
	第5学年		第2学年		第3学年
	国語	算数	国語	数学	英語
令和8年度	49.3	63.8	54.5	45.9	
令和7年度	60.1	67.0	63.1	49.8	48.8
令和6年度	57.8	68.6	62.1	57.4	41.4
令和5年度	69.4	69.7	59.8	53.5	
令和4年度	64.6	60.9	54.3	55.8	54.5
自校					

- 小学校においては、算数は目標値を上回った。国語は目標値に至らなかった。
- 中学校においては、国語・数学ともに目標値に至らなかった。

3 令和7年度重点課題の関連問題について

		令和7年度重点課題	関連問題	平均正答率 (%)	
				県	自校
小学校	国語	複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりする	2 二	26.6	
	算数	図形の性質を理解し、面積の求め方を考える	2 (4)	59.1	
		割合の意味や求め方を理解する	4 (1) ①	36.9	
			4 (1) ②	55.2	
中学校	国語	根拠を明確にして、自分の考えを分かりやすく表現する	1 四	37.1	
	数学	数学の用語の意味を正しく理解する	1 (2)	29.7	
			4 (1)	42.3	
			5 (1)	34.2	
			5 (2)	50.7	
		数学における事柄・事実、問題解決の方法・手順や事柄が成り立つ（または事柄について判断した）理由を説明する	6 (2)	23.8	
			7 (2)	11.2	
			8 (2)	27.6	
			9 (2)	36.0	

4 授業改善に向けて【R8】

小学校国語

叙述を根拠に想像する 関連問題 3二(1)(C) 読むこと

(1) 【話し合いの様子】にあるように、田中さんは、**A**の文をもとに、トッコはどのような気持ちであると考えましたか。①に入る言葉を十字以上十五字以内で書きましよう。

田中さん
わたしは、**A**の文から、トッコは ① という気持ちだと思います。

二 北川さんたちは、まず、トッコの行動や会話が書かれた文を本文からぬき出し、トッコの気持ちや性格について話し合っています。次は、「みんながえらんだ文」と【話し合いの様子】です。これを読んで、あとの問題に答えましよう。

【話し合いの様子】

北川さん トッコの気持ちや性格は、本文に書かれてあることから読み取れるかもしれ
ないね。

田中さん わたしは、**A**の文からトッコは ① という気持ちだと思います。

北川さん わたしは、**B**と**C**の文から、トッコはすなおでない子どもだと感じました。

吉野さん わたしは、**D**と**F**の文から、トッコは ② という気持ちだと思います。

山川さん わたしは、**E**の文から、トッコは早く東京に帰りたいと思っているように感
じました。

北川さん みんなの意見をまとめると、物語の前半では、トッコはつり橋をわたれず
にいて、一人で遊んでいるので、山のくらしが楽しくないと思っています。

【話し合いの様子】

A「だから、さすがに負けずぎらいなトッコも、足がすくんでしまいました。」
B「それなのに、トッコときたら、山の子たちに弱みを見せたくないものだから、東京のじまばかりしてしまっただけです。」
C「あんたたちなんかと、だれか遊んでやるもんか。」
D「はじめのうちは、めずらしかったが、一人では、何をやってもおもしろくありません。」
E「(ママ、今、何してるかな。早く病気がおならないかな。)」
F「だれか、あたしの声をまねしてる。」
G「それからです。トッコが山のくらしが楽しくなったのは。」
トッコは、おもしろくなって、何度も何度もよんでみました。

つりばしわたれ
長崎 源之助

「やあい、やあい、くやしかったら、つり橋わたって、かけてこい。」
山の子もたちがはりました。
トッコは、きゅっとくちびるをかみしめて、ゆれるつり橋を見ま
した。ふしづるでできた橋の下には、谷川がゴーゴーしぶきを上げてな
がれています。
橋はせまいくせに、ずいぶん長くて、人が歩くと、よくゆれます。
おまけに、今にもふしづるが切れそうなほど、ギョツ、ギョツと、き
しむのです。**A**「だから、さすがに負けずぎらいなトッコも、足がすく
んでしまいました。」

(中略)

<改善のポイント>

「叙述をもとに心情を捉える」本問題の正答率は22.4%、無答率は14.0%でした。描かれた「場面の様子」などから登場人物の心情を想像する力に課題があると考えられます。加えて、「足がすくむ」という語句の意味理解が十分でなかったことも考えられます。

指導に当たっては、登場人物の「行動」や「会話」だけでなく、「場面の様子」や「情景描写」などにも着目させ、根拠を明らかにして心情を想像することが重要です。例えば、文章から想像した心情について、その根拠を話し合う活動は、叙述をもとに想像する力や複数の叙述を結び付けて心情を深く読み取る力の育成につながります。

また、語彙を豊かにするために、文章中の語句の意味について適宜問い直したり、動作化をさせたりすることも効果的です。

☆正答率 (%)

	3二(1)
県	22.4
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

理由を明確にして、書き表し方を工夫する【条件に合わせて書く】

関連問題 2 = (D 書くこと)

【保健室の先生の話】

「すいみん」と「体の成長」には深い関係があります。夜おそくまでインターネットを使っていると、すいみん不足になってしまうので気を付けましょう。



保健室の先生

【報告する文章】

インターネットの使いすぎには気を付けよう

わたしは、調べたことをとおして、健康の面からインターネットを使いすぎないように気を付けることが大切だと考えました。

その理由は、

インターネットは、べんりですが、使いすぎないように気を付けることが大切だと、あらためて感じました。みなさんも、心と体を大切にしながら、学びや楽しみをもっと広げるために、インターネットを、うじょうずに使っていきましょう。

<じょうけん>

- 5ページの【調べたこと】と7ページの【保健室の先生の話】の

それぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。

- 書き出しの言葉に続けて、五十字以上、七十字以内で書くこと。

なお、「　」、句読点は字数にふくむ。

二 山内さんは、「インターネットと健康の関係」についてみんなに伝えるため、保健室の先生にも話を聞き、「報告する文章」を書きました。部に山内さんの考えに対する理由を、次のページの「へじょうけん」に合わせて書きましよう。

【調べたこと】

こう目	長 所	短 所
学習	・すぐにけんさくできる。	・まちがった情報もある。
健康		・長い時間画面を見ていると、視力が下がることもある。
人との 関わり	・世界の人とつながることが できる。	・顔が見えないので、気持ちが伝わり にくい。
<参考> 山本健太	「スマホ、正しく使うことができますか？」 森林図書 2018年、14ページ	
中村花音	「デジタル世界のひみつ」 大海書店 2020年、123ページ	

【考えたこと】

インターネットを使うときの長所と短所について、こう目ごとに見てみると、「健康」のこう目には、短所はあっても、長所がないことが分かります。



【伝えたいこと】

インターネットは、べんりだけど、健康によくないこともあるということが分かったね。
だから、みんなには「インターネットと健康の関係」について書いて伝えたいな。



山内さん



山内さん

2 山内さんの学級では、インターネットの使い方が話題になりました。そこで、インターネットを使うときの長所と短所について調べ、学級で報告会をするになりました。次の山内さんが「調べたこと」、「考えたこと」、「伝えたいこと」をよく読んで、あとの問題に答えましよう。

<改善のポイント>

本問題は、昨年度の重点課題に関連する問題です。「考えを支える理由や事例を適切に書くことができるか」をみる本問題の正答率は 26.6% でした。

提示された条件に合わせて、考えの理由や事例となる情報を選択(判断)し適切に表現する力に課題があると考えられます。

指導に当たっては、書き手の意図が明確で、読み手にとって分かりやすい表現について、子供が実感することが大切です。例えば、「考えのみ書かれた文章」と「考えとその理由や事例が書かれた文章」を比較することによって、理由や事例の必要性を理解することができます。そのことが、理由や事例を明確にしながら自分の考えや意見を表現することにつながります。

理由や事例を表現する際は、理由を示す言葉(～だからです。)を適切に用いることを繰り返し確認することも大切です。

☆正答率 (%)

	2 =
県	26.6
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

割合の意味や求め方を理解する 関連問題 4 (1) ①②

4 ひなたさんたちは、学校の畑で育てたさつまいもを使って、
おともパーティーをすることにしました。

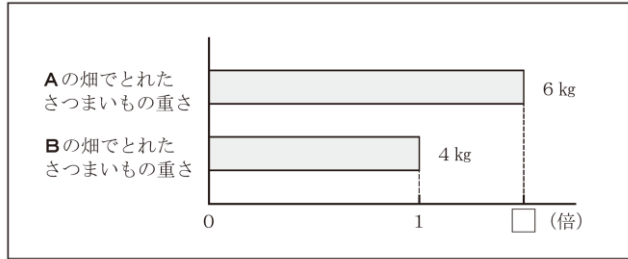


ひなた

さつまいもは、Aの畑で6 kg、Bの畑で4 kgとれたよ。

(1) ひなたさんたちは、Aの畑とBの畑でとれたさつまいもの重さをくらべたいと思ひ、下のような図をかきました。

【ひなたさんたちがかけた図】



- ① ひなたさんたちは、Aの畑でとれたさつまいもの重さと、Bの畑でとれたさつまいもの重さのうち、どちらをもとにする量として図をかいていますか。図をみて答えを書きましょう。
- ② Aの畑でとれたさつまいもの重さは、Bの畑でとれたさつまいもの重さの何倍ですか。何倍かを求める式を書きましょう。(計算の答えを書く必要はありません。)

正答：① B ② $6 \div 4$

同趣旨問題
令和4年度

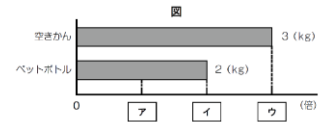
(3) だいすけさんたちは、集めたしげんごみを分別しました。分別した結果は、次のようになりました。

集めたしげんごみの分別結果

空きかん	3 kg
ペットボトル	2 kg

空きかんとペットボトルの重さの関係を図に表すと、下のようになります。

図の **ア** から **ウ** には、何倍かを表す数が入ります。



② 空きかんの重さは、ペットボトルの重さの何倍になるかを求めます。どのような式で求めますか。下の1から4の中から選んで、番号を書きましょう。

- 1 2×3 2 3×2 3 $2 \div 3$ 4 $3 \div 2$

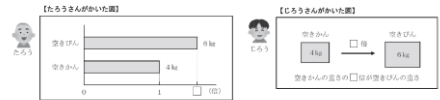
正答率 64.2%

令和7年度

(2) 次に、たろうさんは、しげんごみについて調べました。1か月間に出たしげんごみの重さは下のようになりました。

空きかん	4 kg
空きびん	6 kg

① たろうさんとじろうさんは、空きかんと空きびんの重さの関係について、下のような図をかいて考えています。2人は、空きかんと空きびんの重さのどちらをもとにする量として考えていますか。2人がかけた図を見て答えを書きましょう。



② 空きびんの重さは、空きかんの重さの何倍ですか。じろうさんとたろうさんがかけた図の、□にあてはまる数を書きましょう。

正答率 ①43.8% ②60.9%

<改善のポイント>

本問題は、昨年度の重点課題に関する問題です。「もとにする量」を判断する①の正答率は36.9%、割合（何倍か）を求める式を書く②の正答率は55.2%でした。過去の同趣旨の問題と比べても正答率が低く、継続して改善が必要な内容です。

「もとにする量を1とする」という割合の意味を十分理解できていないことや、図が何を表しているのかを正しく捉えられていないことが要因として考えられます。

指導に当たっては、「もとにする量を1としたときに、比べる量が何倍にあたるか」という二つの量の関係を、常に場面と図、式を関係付けながら確認する習慣を身に付けさせることが重要です。その際、「ここを1とみればよい」と明示したり、「どちらをもとにして考えればよいのか」と問い返したりしながら、問題場面の中から基準となる数量を特定できるようにしていく必要があります。特に「1倍」は、問題文に明確に示されないことが多いため、言葉（「～は…の何倍」など）と図を丁寧に結び付ける活動を、低学年から系統的に積み重ねていくことが大切です。

☆正答率 (%)

	(1) ①	(1) ②
県	36.9	55.2
市町		
自校		

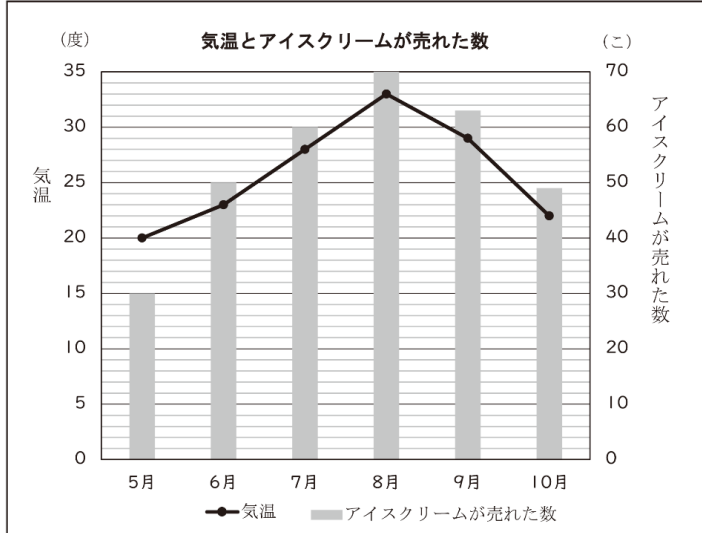
<自身の授業改善のポイント>

3 ひろとさんは、夏休みの自由研究で、アイスクリームについて調べることにしました。



アイスクリームはやっぱり夏によく売れると思うな。
気温とアイスクリームの売り上げの関係について調べてみよう。

(1) ひろとさんは、自分が住む町の5月から10月の気温を折れ線グラフに、近所のお店でアイスクリームが売れた数を棒グラフに表しました。

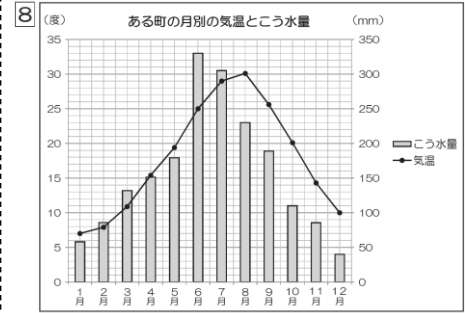


③ 気温がいちばん高い月といちばん低い月のアイスクリームが売れた数をくらべます。アイスクリームが売れた数の差は何ですか。その数を書きましょう。

正答：40こ

同趣旨問題

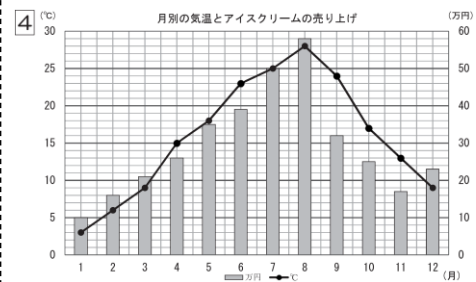
平成31年度



(1) 気温がもっとも高い月は何月で、何度でしょうか。
(2) こう水量がいちばん多い月といちばん少ない月の、気温の差は何度でしょうか。

正答率 ①69.6% ②25.5%

令和2年度



(1) ① 4月の気温は何度ですか。
② 4月の売り上げは何万円ですか。

正答率 ①81.3% ②38.4%

<改善のポイント>

条件に対応するグラフの数値を正確に読み取り、必要な数値を求める本問題の正答率は、全問題中最も低い33.3%でした。

2種類のグラフを組み合わせたグラフについては、過去の同趣旨問題と同様に正答率が低く、どのグラフがどの軸や目盛りに対応しているのかを十分に捉えられておらず、数値を読み誤ってしまっていることに課題があると考えられます。

指導に当たっては、日常生活や他教科等の学習と関連付け、目的に応じてデータを集めて表やグラフに表したり、結果を分析したりする活動を充実させることが重要です。表やグラフを問題解決のために役立てる経験を積み重ねることで、そのよさを実感し、進んで活用していこうとする態度を育むことができます。その際、自分で目盛りの大きさを決めてグラフを作成したり、読み取ったことを伝え合ったりする活動を取り入れることで、「どこに着目すればよいか」を意識させることが大切です。また、目盛りを正確に読み取る技能や、「差」などの算数用語の理解についても、確実な定着を図るため、意味を確かめながら繰り返し指導していくことが必要です。

☆正答率 (%)

	(1) ③
県	33.3
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

中学校国語

根拠を明確にして書く 関連問題 1四 (B書くこと)

【お知らせ】(修正版②)

N中学校 平和学習発表会のお知らせ

残暑の候、皆さん、いかがお過ごしでしょうか。
A、毎年9月に行っている「平和学習発表会」についてのお知らせです。発表会まで残り一か月となりました。
 今年も、N中学校にY中学校の皆さんを正待し、総合的な学習の時間で学習したことを発表します。
 これまで私たちは、5つのチームに分かれて学習し、発表会の準備を進めてきました。
 どうぞ、楽しみにご来校ください。

日時 令和8年9月25日(金) 9時～12時

場所 N中学校 東棟校舎

3階	音楽室 「平和の歌」			美術室 「折り鶴アート」
2階	1-1 「長崎の原爆」	1-2	2-1 「平和の詩朗読」	図書室
1階	玄関 (受付)	職員室		3-1 「世界の情勢」 3-2

※2階1-1「長崎の原爆」では、動画上映時間を次のように予定しています。
 ①10:00～ ②10:30～ ③11:00～ ④11:30～
 上映後、平和の標語を作り、応募箱に入れてください。優秀作品は校内に掲示されます。
 ※「折り鶴アート」では、その場で折った鶴を作品の周囲に飾る予定です。

Y中学校の皆さんへ

四 今年の平和学習発表会では、よりよい発表会にするために、昨年のY中学校からの【意見・感想】をもとに内容を工夫しています。そこで、佐藤さんは、そのことを【お知らせ】の**A**の部分に書き加えることにしました。あなたが佐藤さんなら、どのように書き加えますか。次の**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり、行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 Y中学校からの【意見・感想】の**A**、**I**、**ウ**の中からいずれか一つを選び、その【意見・感想】をもとにした【工夫】を選んで書くこと。

また、選んだ【意見・感想】と【工夫】の記号を塗りつぶすこと。

条件2 条件1で選んだ、Y中学校からの【意見・感想】と今年の【工夫】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと。

Y中学校からの【意見・感想】

A
 N中学校の演奏や合唱はとても素晴らしいものでした。私も途中から参加して、歌いたくなりました。

I
 N中学校の写真館ブースでは、原爆の悲惨さが写真でよく伝わってきました。もし、映像があれば、さらに心に訴えるものがあると思います。

ウ
 N中学校の千羽鶴はとても美しかったです。だから、平和の象徴である折り鶴はやはりあった方がいい。参加者もきっと折りたくなるのではないですか。

今年の【工夫】

A
 今年も、「折り鶴アート」で、日本特有の文化である折り鶴を用いて、平和を発信していく。さらに、来場者に折り鶴を折ってもらうことで、発信する一員になってもらう。

B
 「平和の歌」の最後の歌は、両校ともよく知っている歌を合唱する。参加者にも一緒に歌ってもらうことで平和を願う気持ちを共有したい。

<改善のポイント>

案内文の読み手に対し、根拠を明確にしながらか自分の考えが伝わるように工夫して書く力を問うこの設問は、正答率が37.1%、無答率が13.1%でした。

複数の情報から自分の考えに沿った情報を選択したり、情報同士を適切に結び付けて自分の表現に生かしたりするなど、根拠を明確にしながらか自分の考えを書くことに課題があると考えられます。

指導に当たっては、表現をする際に考えだけを書かせるのではなく、「主張」とともに「なぜ、そのように考えたのか」「どこから考えたのか」を記述するよう指導するなど、自分の考えを根拠とともに組み立てる経験を繰り返すことが効果的です。また、書いた文章は「主張」「理由」「根拠」に色分けをしたり、そのつながりを生徒同士で確認させたりする活動を取り入れることで、生徒が主張と根拠のつながりを意識するようになり、物事を筋道立てて表現する力の育成につながります。

☆正答率 (%)

	1四
県	37.1
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

叙述を基に捉える 関連問題 3二 (C 読むこと)

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

最近、わたしは写真家として主な被写体を最初から昆虫に決めてやってきましたがほんとうに幸運だったとつくづく思っています。他のいかなる分野の写真を目指したとしても、よるこや感動といったものをこれほど長時間持続させることは、とうていできなかったにちがいないからである。カメラで昆虫を追うようになってからの、この三十五年間というの常にワクワク、ドキドキの連続であったといっても、けっして誇張ではない。まさしく、その通りだったのである。

その間に、まだあれもなし得なかつた撮影技術を開発し、だれも発表しなかったの新しい表現をものにしてきたが、それが可能だったのは、昆虫という小さな生き物を相手にして、その生態をいかに正確に、いかに新しい映像として表現するかを常に全身全霊で考え続けてきたからである。(中略)

昆虫が見ている世界を、昆虫の目になってそのまま表現することができたのだんなに楽しいことだろう——こんな夢を長いあいだ見続けてきた。(中略)

マクロの世界を撮影してこのような表現を可能にした写真家は、長い写真の歴史においてこれまでひろもいなかたと思う。写真家ならだれでも望むはずのこのような表現がこれまでに得られなかつた原因は、先に述べたように、それを可能にするための道具であるカメラやレンズがこれまで存在しなかつたからである。(中略)

中央から遠く離れた田舎に移転したのも、今にして思えば正解であった。少年期の途中に東京に移住して以来、写真家としての活動が始めてからはネットワークを続けたが、なんといっても身近に自然が少なかつたのはネックだった。また、仕事が増えるのはありがたいが、打ち合わせなど撮影以外の時間が多くなるのも都合がよいとはいえず、痛しんかゆしの状態だった。思い悩んだ末、意を決して、子どもをこの駒ヶ野に連れてきた。長崎県北松浦半島の突端といえは、今でもかなり不便な土地であるが、故郷にもどりたい一心で、今から二十四年前に移住を決定した。「はたしてそんな辺境に移り住んでプロの写真家として活動することが出来るだろうか?」という一抹の不安がなかつたわけではないが、ある程度の自信もあつた。というのは、そのころすでに、独自の撮影技術、とりわけ光センサーを取り入れた撮影装置によって昆虫の一瞬の行動を捉え、それまでにはまったく見られなかつた作品を発表しはじめたからである。このような独自の技術を持っていれば、日本のどこに住んでも、中央から見捨てられることはないだろうという思いがあつた。また、日ごろの仕事ぶりを見てくれている妻をはじめとする家族の後押しがあつたのも大きかつた。

故郷での生活は予想以上にすばしかりかつた。一歩家を出れば目の前に目指す被写体がいくらでもあり、思う存分撮影に没頭することができた。編集者が必要とする写真を求めて遠路をいとわず訪ねて来てくれた。そして、自分にとって何物にも増して重要な、数々のアイデアを熟成させた。

二——線部②の「昆虫を相手にして幸運だったことがもうひとつある」について、「幸運だったこと」で可能になったことを四十文字程度で探し、はじめの五字を書き置きなさい。

このように書いてくると、わたしの仕事の成果は、たいへんな忍耐と血のむくような努力の結果と思われぬかも知れないが、じつをいうとそんな大層な苦勞をしたという感覚は、①がじつにない。初期のころにはたしかにそのような「コトコト」が、取り組んだ記憶も無いが、いつともなくたまたま「だだ」もふらず物事に取り組んでいたら、多分このような作品を産み出すことはできなかったにちがいない。カメラやレンズといった機材を作るだけならともかく、さらにそこから作品を産み出すには、柔軟な精神がなければならぬ。遊び心を持ち、いつもワクワクするような期待感、胸を躍らせて自然を愛し、気持ちを保持していなければ、人に感動を与えるような作品ははらいて作り出せないだろう。

②昆虫を相手にして幸運だったことがもうひとつある。時間的なゆとりが生まれたことだ。ご存知の通り、昆虫はほかの動物とちがって一年中活動しているわけではない。わたしが住むこの長崎でも、十一月から三月にかけては活動する昆虫が少なくなり、当然、暇ができる。そこでわたしは、余った時間をそれまであたためていたアイデアを具体化するための研究に充てることが出来るのである。たとえば、日常の撮影中に、ふと、こんな装置があつたら撮影が楽になるのではないかと、こんなレンズがあつたらもつちがった表現が可能になるにちがいないなどと思うことがある。そういうアイデアをあたためておき、シーズンオフに試作してみるののである。

③時間的余裕を持つことができたのである。

わたしの写真活動三十五年間の歴史を振り返り、思うところを簡単に綴ってみたが、最後に、これから写真家をささうとする若い人たちに次のメッセージを贈りたいと思う。

自然を相手に作画する写真家という職業は、それで生活が成り立つことを前提にして、文句なしにすばらしい。昆虫写真という限られた分野だけをとり、この職業にあこがれる若い人たちは少なくない。今後どういう人たちが輩出してきられるかをめざし、夢と希望を持って挑戦し続けてほしいと思う。

そのときに心してもらいたいのは、作品を作るうえで、自分だけのオリジナルといえる技術や作風をひとつだけでも確実性を持っていただきたいということである。これがプロの写真家たる者の最低限の条件であると思うからである。

④慣れないことに、写真に限らず、昔から日本人は人まねに過ぎないものを容認してはばからない土壌があるように思えてならない。そのような寛大さ(?)は国際的に通用しないばかりでなく、その作者の進歩をさまたげる要素になつていくことに気がつかなければならぬ。後に続く若い人には、自分を信じて大きくはばたいてほしいと思う。

※ 被写体：写真で、撮影の対象となるもの。
※ 時限：表題よりもけさに現れること。
※ マクロ：極めて大きいもの。
〔栗林慧「栗林慧全仕事 独自のカメラでとらえた驚異の自然」による〕

<改善のポイント>

叙述を基に内容を捉え、指定された条件で抜き出すこの設問は、正答率が19.7%と全設問の中で最も低い結果でした。また、同様に叙述を基に内容を把握する3五(1)ア～ウの問題は、無答率が20%前後と高い結果でした。

このことから、叙述に基づいて正確に書かれている内容を捉えたり、問いが求める内容を本文中の具体的な叙述と結び付けたりすることに課題があると考えられます。

指導に当たっては、文章を読む際に、内容を捉えるだけでなく、「原因」と「結果」を矢印で結んだり、重要な情報を枠で囲んだりするような活動が効果的です。図に表すことで、内容を視覚的に捉えることができます。さらに、日頃から読み取りの学習をする際に、「なぜそれが根拠だと思うのか」を生徒同士で説明し合う活動を取り入れることも大切です。他者の考えや根拠を聞くことで、多様な見方があることに気付き、自己の考えをより深めることができるようになるとともに、「文章の叙述」に基づいて理解することができる力の育成につながります。

☆正答率 (%)

	3二
県	19.7
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

中学校数学

数学の用語の意味を正しく理解する

関連問題 1 (2)、4 (1)、5

- 1 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。
 (2) 次の数のうち、素数をすべて答えなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

正答：2, 3, 5, 7

- 4 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。
 (1) 下のアからエで、 y が x の関数であるものをすべて選びなさい。

- ア 縦の長さが x cm の長方形の面積は y cm² である。
 イ 半径 x cm の円の周の長さは y cm である。
 ウ 1本100円の鉛筆を x 本買ったときの代金は y 円である。
 エ 身長 x cm の人の体重は y kg である。

正答：イ, ウ

- 5 下の表は、ある中学校の2年生80人の徒歩での平均通学時間を調べた結果を、度数分布表に整理したものです。
 このとき、次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

2年生の徒歩での平均通学時間

階級 (分)		度数 (人)
以上	未満	
0 ~	5	2
5 ~	10	6
10 ~	15	3
15 ~	20	7
20 ~	25	26
25 ~	30	15
30 ~	35	12
35 ~	40	9
合 計		80

- (1) 2年生の徒歩での平均通学時間において、きいひんちゆう最頻値を求めなさい。

正答：22.5 分

- (2) 2年生の徒歩での平均通学時間において、30分以上35分未満の階級の相対度数を求めなさい。

正答：0.15

<改善のポイント>

重点課題に関連する問題については、下表に示すように約3割から5割の正答率でした。特に、素数を問う1(2)では正答率が29.7%にとどまりました。

数学の用語の意味を正しく理解した上で、問題を解決していくことについては、継続した課題があると考えられます。

指導に当たっては、学習する内容と関連した既習内容に触れる機会を、意図的かつ計画的に設定することが大切です。例えば、3年生の関数の学習の際に、関連した1・2年生の既習事項を想起させる機会を作るという手立てが考えられます。その際、「1年生で〇〇を習ったね。」というような問いかけではなく、今学んでいることと既習の事柄を比較して、共通点や相違点を見付けたり、関連付けたりするといった、学年と学年の学びを「つなげる」ことを意識します。そうすることで、既習の知識がつながり合い、より深い理解へとつながります。また、データの活用の学習では、データの傾向を読み取ったり、それを説明したりする場面を仕組むことで、「相対度数」「最頻値」などの用語を正しく用いる必要性が生まれます。このような経験を繰り返していくことで、用語の意味を理解し、正しく使う力を身に付けさせることができるようになります。

<自身の授業改善のポイント>

☆正答率 (%)

	1 (2)	4 (1)	5 (1)	5 (2)
県	29.7	42.3	34.2	50.7
市町				
自校				

数学における問題解決の方法を説明する

関連問題 6 (2) 7 (2) 8 (2) 9 (2)

8

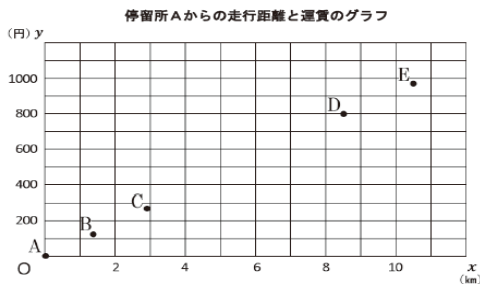
ゆうとさんは、通学で利用するバスの運賃が値上がりするというニュースを聞いて、バスの運賃と走行距離の関係が気になり、よく利用するバスの路線にある5つの停留所について、一人一台端末を利用して調べ、下のような表にまとめました。



調べた結果

	停留所 A	停留所 B	停留所 C	停留所 D	停留所 E
停留所 A からの走行距離 (km)	0	1.3	2.9	8.5	10.5
停留所 A からの運賃 (円)	0	120	270	800	980

ゆうとさんは、上の調べた結果を見て、停留所 A からの走行距離と運賃の関係がわかりにくいと考え、停留所 A からの走行距離を x km、停留所 A からの運賃を y 円として、下の図のようなグラフを作成しました。このグラフの点 A から点 E までの各点の x 座標は、停留所 A から各停留所までの走行距離を、 y 座標は停留所 A から各停留所までの運賃を表しています。



このとき、次の (1)、(2) の各問に答えなさい。

(1) ゆうとさんは、停留所 A からの走行距離と運賃のグラフを見て、停留所 C と停留所 D の間の走行距離は、他の停留所と停留所の間に比べて長いと思いました。

停留所 C と停留所 D の間の走行距離は、停留所 A からの走行距離と運賃のグラフの何を読み取ればわかりますか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア 点 D の x 座標と原点の x 座標の差

イ 点 D の x 座標と点 C の x 座標の差

ウ 点 D の y 座標と原点の y 座標の差

エ 点 D の y 座標と点 C の y 座標の差

正答：イ

(2) ゆうとさんがさらに調べると、新しい停留所が停留所 A から 7.0km の地点につくられることがわかりました。そこで、停留所 A から新しい停留所までの運賃がおよそ何円になるかを予測することにしました。

停留所 A から新しい停留所までの運賃を予測するために、停留所 A からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点 A から点 E までの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、停留所 A から新しい停留所までの運賃は、およそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおよそ何円になるかを求める必要はありません。

正答例：

○点 A から点 E をもとに、直線のグラフを書き、 x 座標が 7 の時の y 座標を読む。

○直線は原点を通るので $y = ax$ に点 B の x 座標、 y 座標を代入し、 a の値を求め、その式に $x = 7$ を代入し y の値を求める。

<改善のポイント>

重点課題に関連した問題の正答率は下に示すとおりです。

8 (1) のグラフから必要な情報を読み取ることについては、正答率が 67.8% でした。しかし (2) のように、読み取った情報をどのように処理していけばよいか、という課題解決の方法を適切な言葉で説明することには課題があると考えられます。また、(2) は式・グラフのどちらの方法を用いるにしても、「距離と運賃の関係を比例とみなす」ことが解決の第一歩ですが、無答率が 34.6% であったことから、この段階でつまづいた生徒もいたと考えられます。

指導に当たっては、説明する場面において数学用語を使った表現を意識させることはもちろんですが、「どのような方法があるか」「何から進めていけばよいか」など、「解決の見通しをもたせる」ことも大切です。例えば、本問を授業で扱う際は、表やグラフなど、問題の中にある情報に着目させ、まず距離と運賃の関係について確認します。この押さえをすることにより、生徒の思考が比例の式やグラフへとつながって、問題の解決に結び付きます。また、ここで生徒に比例をはじめ関数に関する学びを想起させることで、言葉の意味理解を確実にすることにもつながります。

あわせて、説明する活動においては、「事柄・事実、方法・手順、理由」など、何を説明すればよいかを明確にした指示をすることも心がけたいポイントです。

☆正答率 (%)

	6(2)	7(2)	8(2)	9(2)
県	23.8	11.2	27.6	36.0
市町				
自校				

<自身の授業改善のポイント>

5 各教科の設問別正答率

<小学校国語>

大問	小問	設問の概要	出題の趣旨	正答率・誤答率・無答率(%)	
1	一	【話し合いの様子】の一部における、小田さんの発言——部アの意図として、適切なものを選択する	集めた情報が、インタビューの目的に合っているかどうかをたしかめる	0.7 58.4 40.9	
	二	【話し合いの記録】におけるふせんの整理の仕方として、適切なものを選択する	複数の情報を観点を明確にして分類し、整理する	0.8 53.0 46.2	
	三	(1)	【インタビューの様子の一部】における、原口さんの発言——部イの意図として、適切なものを選択する	自分が聞きたいことの中心を明確にして、知りたいことを質問する	0.9 45.6 53.5
		(2)	【原口さんのふり返り】の [A] に適切でないものを選択する	話の中心や話す場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫する	0.9 61.4 37.7
2	一	(1)	【調べたこと】をまとめるくふうとして適切なものを選択する	1.1 60.6 38.3	
		(2)	【調べたこと】から【考えたこと】を書く際に注目したこととして、適切なものを選択する	1.4 72.7 25.9	
	二	【報告する文章】の [] 部に、考えの理由を記述する	理由を明確にして、書き表し方を工夫する	26.6 67.1 6.3	
	三	(1)	漢字を書く ア ベんり	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書く	51.7 39.9 8.3
		(2)	漢字を書く ウ じょうす		74.1 16.5 9.4
		(3)	正しい送り仮名を選択する イ 改めて		2.0 80.5 17.4
3	一	(1)	【物語】の中の——部アで「きゅっと」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	2.5 47.0 50.5	
		(2)	【物語】の中の——部イで、「そめました」の主語として適切なものを選択する	2.7 31.3 66.0	
	二	(1)	【話し合いの様子】の [①] に入る言葉を本文中から想像しながら書く	登場人物の気持ちについて叙述を根拠にすることで、具体的に思い描くことができる	22.4 63.6 14.0
		(2)	【話し合いの様子】の [②] に入る言葉を本文中から想像し、適切なものを選択する		45.6 45.3 9.1
	三	「トッコ」の気持ちが変わった出来事について、叙述を基に具体的に想像して書く	登場人物の気持ちが変わった理由を、叙述を基に捉える	8.8 72.3 18.9	

※端数処理により合計が100%にならない場合があります

大問	小問	設問の概要	出題の趣旨	正答率・誤答率・無答率(%)
1	(1)	はじめに持っていたおかしの数、あげた数、残りの数の関係を表した図を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、図を選ぶことができるかどうかをみる	89.3 10.0 0.8
	(2)	問題場面の数量の関係を捉え、はじめに持っていたおかしの数を書く	問題場面の数量の関係を捉え、計算して答えを求めることができるかどうかをみる	91.6 7.9 0.5
	(3)	家から20分かかる位置にある駅に9時10分に到着したいとき、家を出発する時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができるかどうかをみる	87.5 11.9 0.6
	(4)	$10/5 - 7/5$ の計算の仕方を書く	単位分数の個数に着目して、同分母の分数の減法の計算の仕方を記述できるかどうかをみる	56.7 38.1 5.2
	(5)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	48.6 46.0 5.5
イ	42.7 51.7 5.6			
2	(1)	半径5cmの円が4枚ぴったり入る長方形の紙の縦の長さを書く	円の半径の長さと長方形の紙の縦の長さの関係を捉え、長方形の紙の縦の長さを求めることができるかどうかをみる	53.4 45.5 1.0
	(2)	方眼上の6つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	77.2 22.0 0.8
	(3)	ひし形の頂点として適切な位置を選ぶ	ひし形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	62.8 35.9 1.3
	(4)	L字型の図形の面積を求める式として適切なものを選ぶ	長方形を組み合わせた図形について、示された面積の求め方を解釈し、その求め方に基づいて立式することができるかどうかをみる	59.1 39.2 1.7
	(5)	① 1本のひもを「切る回数」と「できるひもの数」の関係を表した文の、アとイに当てはまる言葉を選ぶ	数量関係に着目し、「切る回数」と「できるひもの数」の関係を説明することができるかどうかをみる	77.7 20.3 2.0
	② 1本のひもを「切る回数」と「できるひもの数」の関係について、○と□を用いて表した式のうち、正しい式を2つ選ぶ	数量関係に着目し、○と□を用いて、その関係を式に表すことができるかどうかをみる	58.8 39.2 2.0	
	③ ひもを10本作るためにはひもを何回切るとよいかを書く	「切る回数」と「できるひもの数」の関係における規則性を適用して、求めたい数量を求めることができるかどうかをみる	83.3 14.5 2.2	
3	(1)	① 棒グラフと折れ線グラフを組み合わせたグラフから、8月の気温を読み取って書く	折れ線グラフの特徴を理解し、必要な数値を読み取ることができるかどうかをみる	72.3 26.2 1.5
		② 棒グラフと折れ線グラフを組み合わせたグラフから、棒グラフの1めもりが表す大きさを読み取って書く	棒グラフの特徴を理解し、必要な数値を読み取ることができるかどうかをみる	54.1 44.0 2.0
		③ 棒グラフと折れ線グラフを組み合わせたグラフから、気温が一番高い月と低い月のアイスクリームが売れた数を読み取り、その差を書く	折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフの特徴を理解し、必要な数値を読み取り、その差を求めることができるかどうかをみる	33.3 64.2 2.5
	(2)	① 二次元表の中のアに当てはまる数を書く	二次元の表からデータを適切に読み取ることができるかどうかをみる	88.8 8.3 2.9
	② 二次元表の中のイに当てはまる数が表す意味を選ぶ	49.5 47.7 2.9		
4	(1)	① Aの畑でとれたさつまいもの重さと、Bの畑でとれたさつまいもの重さの関係について表した図から、もとにする量はどちらかを選ぶ	基準量、比較量を捉え、数量の関係を図を用いて適切に表現することができるかどうかをみる	36.9 57.1 6.0
		② Aの畑でとれたさつまいもの重さは、Bの畑でとれたさつまいもの重さの何倍かを求める式を書く	示された場面を基にして、倍の求め方を記述できるかどうかをみる	55.2 38.3 6.5
	(2)	式 答 1台に4人ずつ座ることができるテーブルに30人が座るとき、必要なテーブルの台数を求める式と答えを書く	除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるかどうかをみる	70.8 23.1 6.2
				65.6 28.2 6.2
		(3)	① 4.5mのリボンの長さを5等分するときの計算の仕方を基に、3.45mのリボンの長さを5等分するときの計算の仕方を書く	数を構成する単位に着目して、小数÷整数の計算の仕方を書くことができるかどうかをみる
	②	45.5 47.6 6.8		

※端数処理により合計が100%にならない場合があります

大問	小問	設問の概要	出題の趣旨	正答率・誤答率・無答率(%)	
1	一	適切な接続する語句を選択する	文脈を捉え、接続する語句として適切なものを選ぶ	92.8 7.1 0.1	
	二	漢字を書く（ショウタイ）	文脈に即して漢字を正しく書く	37.8 44.6 17.6	
	三	案内文の中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考える	44.8 54.4 0.8	
	四	案内文の読み手に向けて、今年の平和学習発表会の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	37.1 49.8 13.1	
2	一	スピーチをするときの工夫として適切なものを選択する	スピーチをするときの工夫を理解している	77.6 21.9 0.5	
	二	聞き手の反応に応じた発言の意図として適切なものを選択する	情報と情報の関係について理解している	86.1 13.3 0.7	
	三	論の展開に対する発言の意図として適切なものを選択する	話題や展開を的確に捉え、自分の考えを伝える	22.6 76.3 1.1	
	四	他者の発言と結び付けた自分の考えを書く	話し合いの内容を捉え、自分の考えをまとめる	50.6 36.5 12.9	
3	一	「みじんもない」の意味を選択する	語句の意味を捉える	73.6 25.9 0.5	
	二	叙述を基に構造を適切に捉える	叙述を基に捉える	19.7 71.2 9.1	
	三	I	漢字を書く（ココロガマエ）	文脈に即して漢字を正しく書く	43.3 44.1 12.6
		II	漢字を書く（センネン）	文脈に即して漢字を正しく書く	26.6 47.9 25.5
		III	漢字を読む（情けない）	文脈に即して漢字を正しく読む	93.4 4.8 1.8
	四	文の成分を選択する	文の成分を捉える	56.6 42.2 1.2	
	五	(1)	ア	キーワードに留意して、正確に要旨を捉える	60.7 22.6 16.7
			イ		57.0 19.8 23.2
			ウ		58.3 20.6 21.2
		(2)	文章の構成や展開について、根拠を明確にして合うものを選択する	文章の流れを捉え、その展開を把握する	42.7 54.0 3.3

※端数処理により合計が100%にならない場合があります

大問	小問	設問の概要	出題の趣旨	正答率・誤答率・無答率(%)
1	(1)	$6 \div 2 \times (-3)$ を計算する	四則計算ができる	73.3 25.2 1.5
	(2)	与えられた9個の整数の中から素数を選び出す	素数の意味を理解している	29.7 67.5 2.8
2	(1)	一元一次方程式 $6x-3=2x+5$ を解く	一元一次方程式を解くことができる	73.5 22.7 3.8
	(2)	数量関係を不等式を用いて表す	数量関係を理解し、不等式で表すことができる	40.1 50.8 9.1
3	(1)	正三角形を、点Oを中心として時計回りに回転移動させた時の回転角度を求める	回転移動について理解している	42.8 55.1 2.1
	(2)	直方体において、辺BFとねじれの位置にある辺を選ぶ	空間における直線と直線の位置関係について理解している	70.1 29.5 0.4
4	(1)	yがxの関数となるものを選ぶ	関数の意味を理解している	42.3 56.5 1.2
	(2)	与えられた比例のグラフについて、yをxの式で表す	比例のグラフを式に表すことができる	41.0 47.8 11.3
5	(1)	平均通学時間の記録をまとめた度数分布表から、最頻値を求める	度数分布表から、最頻値を求めることができる	34.2 60.1 5.7
	(2)	平均通学時間の記録をまとめた度数分布表から、30分以上35分未満の階級の相対度数を求める	度数分布表から、ある階級の相対度数を求めることができる	50.7 40.0 9.2
6	(1)	碁石を並べて1辺が5個の正三角形の形を作るときに必要な碁石の数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	46.5 50.3 3.2
	(2)	碁石を並べて1辺がn個の正三角形の形を作るときに必要な碁石の数の求め方を説明する	与えられた説明を参考に、問題解決の方法を数学的に説明することができる	23.8 62.9 13.2
7	(1)	$\triangle ABC$ において辺BCの垂直二等分線について正しく述べられていないものを選ぶ	垂直二等分線の性質を理解している	79.9 19.0 1.0
	(2)	作図によってスタジアムの建設予定地を求めることができる理由について説明する	条件をもとに、問題解決の理由を数学的に説明することができる	11.2 67.8 21.0
8	(1)	停留所Aからの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればCとDの間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができる	67.8 30.1 2.1
	(2)	停留所Aから7.0km地点につくられる新しいバスの停留所までの運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	27.6 37.8 34.6
9	(1)	2つの中学校におけるスマートフォン利用時間を比べる際に、相対度数を用いる理由を答える	相対度数の必要性和意味を理解している	36.6 53.0 10.3
	(2)	平均値が等しい2つのデータを比較し、2つのデータの傾向の違いを度数分布多角形をもとに説明する	度数分布多角形の特徴を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	36.0 35.5 28.5

※端数処理により合計が100%にならない場合があります

6 各市町の状況

(県平均正答率以上の場合「+」表示)

校種	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
長崎市	+		+	
佐世保市				
島原市	+	+		
諫早市	+			
大村市	+	+		+
平戸市		+		
松浦市		+		
対馬市				
壱岐市	+	+		
五島市			+	+
西海市		+		
雲仙市	+	+	+	+
南島原市		+	+	
長与町	+	+	+	+
時津町	+	+	+	+
東彼杵町	+			+
川棚町				
波佐見町	+	+		
小値賀町	+			
佐々町				
新上五島町			+	+

※県立中・特別支援学校を除く